

## ●春日部市民文化講座（第7回）

◆日 時：2013年9月25日(水) 10時（ぼぼら春日部4階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「押絵羽子板の話」

講師：京極 寿一さん（押絵師、押絵羽子板工房 琴山3代目）

◆ゲスト紹介：1939年4月23日、東京都台東区浅草に、押絵師二代琴山(きんざん)の長男として生まれる。1942年ごろより春日部市に在住。春日部高校を卒業後、東京築地の看板店に弟子入り。1957年より、父である二代目琴山より本格的に押絵の技術を習う。1962年、押絵作家教会青年勉強会の初代会長に就任、国立劇場資料室に羽子板工定額を寄贈。1967年、当世名人と呼ばれた桜井一郎(号春山)に弟子入り。1983年、春日部市特産品協議会会長に就任。1986年、来日中のチャールズ皇太子、ダイアナ妃に押絵羽子板を贈呈。1991年、埼玉県伝統工芸士の認定を受ける。国内だけでなく海外でも展覧会を行なっている。押絵羽子板工房 琴山三代目。



## ■押絵羽子板のある風景

これから3ヶ月が過ぎますとお正月がまいります。皆さんのお正月の思い出として、小さい時分には羽根突きをされたと思いますが、交通事情や遊ぶものの変化で最近では、小さいお子さんが羽根を突く姿というのを見かけることがなくなりました。ひと昔前であれば、素材が柔らかい桐の羽子板で追羽根を突くコンコンという音が正月の楽しい遊びであったと思います。お正月の思い出は、凧揚げ、こま回しなどと一緒に羽根突きであったと思います。この押絵羽子板に携わってきたのも何かの縁だと思います。私は三代目でして、初代琴山、二代目で父でもある琴山たちに長年修行して一途に専念してやってまいりました。

今は伝統的工芸品と呼ばれていますが、職人の世界でコツコツと押絵羽子板作りをしてまいりました。

## ■押絵羽子板の歴史

押絵羽子板というのは、押絵と羽子板とは別の世界から生まれたということを知っていただきたいと思います。最初に「羽根突き」という遊戯ですけれども、どういう形で生まれてきたのかというと、1400年頃、室町時代に京都御所で公家と女官が男女二組に分かれて羽根突きをしたという記録が『看聞御記(かんもんぎょき)』という日記の中に記されており最初の文献だそうです。大衆の中では、全国的にさまざまな形で羽子板があったかと思うのですが、庶民の間でも卓球のラケットのような形のもので追羽根を突いたというようなことが残っています。宮中では男女が分かれて「こき(碁鬼)の子勝負」というような言葉で残っています。それが「羽碁鬼板」となり、現在の「羽子板」に変化したという呼び名になったということが記録されています。その後、羽根突きよりも羽子板に祓いや縁起としての装飾が施され、縁起物の装飾品としての色合いを帯びていきました。正月に厄払いとして羽子板を飾ったのです。羽根突きが日本古来のものかと考えておりましたが、調べてみたら、ヨーロッパでも14世紀頃から羽根突きがあったという記録が残っているようです。これも板でもって羽根を突いたものなのですが、今ではバドミントンという競技になっています。このように羽根突きというのは、誰でもが身近にできる遊戯であったのだと思います。

## ■描き絵羽子板と左義長羽子板

羽子板というのも独特の発達をしてまいりました。羽根突きの競技をする羽子板に絵を描いた『描き絵羽子板』と、贈り物として発達した高価な「左義長羽子板」があります。「左義長」とは室町時代の記録に、正月の15日に陰陽師が行う火祭りでした。これが民間に伝わり、書初めや注連飾りを一緒に焼き「どんどん焼き」として厄払いの信仰となり今日まで伝わっています。



## ■押絵の原型は奈良時代

次に『押絵(おしえ)』というのは押す絵で、奈良の正倉院に「押絵の原型が残っている」という記録があります。これは『押絵』という言葉ではなく、『貼り絵』なんですね。紙とか裂とかを貼って絵にしたものです。「貼る」という言葉は「金箔を押す」というように「押す」という意味があり、そこから『押絵』が成り立っていきます。最初に『押絵』を作ったのが、1600年代の江戸時代に東福門院和子(徳川和子)という二代将軍・秀忠の娘さんで後水尾天皇の中宮に入られた方で、人形にも通じて『押絵』を作り上げていったと言われています。初期の「押絵」は、花や鳥、花鳥風月を題材にして、手文庫や箸入れなどに貼り付けられていました。そして、江戸末期、文化・文政の頃になると、庶民の間に歌舞伎が人気となり、そうした歌舞伎役者を題材として『押絵羽子板』が出来上がってきました。

## ■本物を見て自分自身が感じたものを描いていく

弁慶の面相を描くにも、強さだけではお客様に喜ばれない。そこに男の色気や甘さが必要なのです。ですから、羽子板を作っていくには本物を見て自分自身の肌で感じて、それを軸にして作っていくことを基本にしています。

羽子板と押絵、それぞれに発達した文化が一緒になったとはとても勉強になりました。